



幸せなシニアライフを迎えるために

犬は捕食動物であるため、自然界であれば獲物を探し、追いかけて捕まえて食べるというのがそもそもの生き方。そのため、ボールを追いかけて、おもちゃで引っぱり合ったりする遊びを好みます。また、もともと集団で生活してきた社会性のある動物のため、人や犬同士のふれあいを好みます。

このような犬の習性を理解し、愛犬の欲求を満たしてあげることが第一歩になりますが、ポイントとしては、少しでも早い時期からの経験の積み重ねが大切ということ。シニアになって今まで経験していなかったことを急を始めると、逆にストレスになることもあります。

楽しいことや好きなことを少しでも若いうちにたくさん経験しておきましょう！そうすれば、年をとっても楽しむことができ、それがアンチエイジングにつながります。

＊いつまでも元気であるための＊

アンチエイジング



デンタルケア

健康で長生きするためには、犬もデンタルケアが欠かせません。3歳以上の犬の8割以上が歯周病といわれ、口の中で菌が繁殖し、ひどくなると歯が抜けたり、全身に菌が運ばれて悪影響を及ぼすことも…。

ごほうびを使いながら少しずつ歯みがきに慣らし、シニアになってもピカピカの歯を保てるようにしましょう。

歯みがきレッスン方法を紹介しています！
ペピのWEBサイト内で、「歯みがきを好きになる方法」と検索してみてください。
www.peppynet.com



若さを保つ食生活

＊ 毎日の生活をもっとイキイキ！ ＊

暮らしの中のほどよい刺激が、愛犬の若さを保つポイント。年をとって静かにしていることが多くなると、つい構わなくなりがちですが、大好きな飼い主さんと一緒に遊んだり、休みの日にどこかに連れていってもらうことは、愛犬の心と体、両方の良い刺激となります。ふれあう時間を作って、「うちの子がキラキラする瞬間」を増やしましょう。



イキイキ♪

年齢はひとつの目安ですが、それ以上に愛犬の体型の変化や便の状態などをチェックしながら、その子に合った食事を選んであげることが大切です。

人間だと「今日は魚にしようかな？」というように、栄養バランスを考えながら毎日の食事を考えますよね。愛犬にとっても、様々な栄養素を摂るためにも「一生このフード！」と考えずに、様子を見ながら選んでいくことも必要です。

また、太ってしまうと関節疾患や心疾患などにかかりやすくなるため体重管理も重要なポイント。太り気味ならダイエットに配慮されたフードに切り替え、さらに野菜など低カロリーの食材を足すと満足度もアップします。

最後に



人でも年をとると子供にかえると言いますが、犬も様々な機能の低下によって今までできていたことができなくなり、不安を感じるようになります。そんなとき、もう一度子犬の頃のように時間をかけて丁寧に接してあげてください。

そして、なるべく自分の意志で出来ることは減らさないようにしましょう。

例えば、ソファに上がりにくくなったら台やスロープを置いて、ごほうびで誘導しながら上がれるようにお手伝いしたり。

飼い主さんと愛犬、手を取り合って一緒に幸せなシニアライフをつくっていけるといいですね。



年を重ねていく愛犬のために、私たちに何が出来るだろう？



幸せ!

シニアライフ



これからもそばで笑って、元気で長生きしてね。

愛犬と出会ってからどのくらいの歳月が経ちましたか？
「まだまだ若い」と思っている、犬の7歳は人の40~50代。
思った以上に早いスピードで愛犬は年をとっていきますが、
少しでも早くから楽しい経験や日常のケアができていれば、
シニアになったときもイキイキとした生活が送れます。

お話を聞きました



もみの木動物病院(神戸市) 獣医師 村田 香織 先生
同病院では、シニアの犬猫のためのセミナーや勉強会を定期的に行なっています。一緒に写っているのは先生のおうちのあすかちゃん11歳(左)とれんげちゃん8歳(右)。

老いのサインをキャッチしよう

聴覚

- 名前を呼んでも見ない
- 物音への反応が鈍くなる (玄関チャイム、飼い主さんが近づく音、食べ物を開ける音)



視覚

- ボールなど動きのあるものを目で追わなくなる
- 物にぶつかるようになる



運動能力

- 朝なかなか起きてこない
- 以前ほど散歩を喜ばなくなる
- 階段を踏み外しそうになる



その他

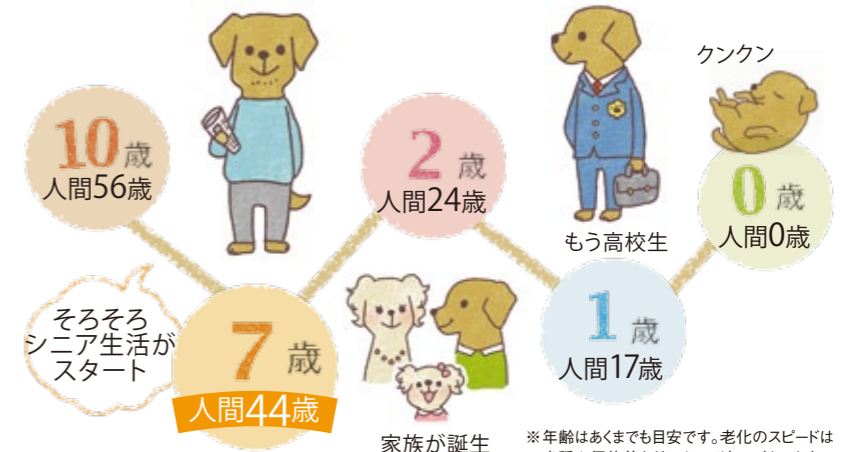
- 白い毛が増える
- 固いものを食べるのに時間がかかる



シニアの入り口は、7歳前後から。

犬種によって異なりますが、1歳で高校生くらい、2歳で24歳前後まで成長します。それからは1年で人間の4倍ものスピードで年をとっていき、老いは成熟しきった瞬間から始まり、老化は成熟が少い段階から始まります。犬種や個体差はありますが、様々な変化が少しずつ見えてくるのが7歳前後で、実際に見て感じるようになるのは10歳前後。心身ともに少しずつ変化が訪れてきます。

人間を含め、動物は「誕生↓発育↓成熟↓老化」という流れをたどりますが、誕生した瞬間から発育するように、老化は成熟しきった瞬間から始まります。犬種や個体差はありますが、様々な変化が少い段階から始まります。犬種や個体差はありますが、様々な変化が少い段階から始まります。犬種や個体差はありますが、様々な変化が少い段階から始まります。



※年齢はあくまでも目安です。老化のスピードは犬種や個体差などによって異なります。